

アーカナイツの恋愛イベントを捏造してみた

通りすがりの熾天龍

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したもので
す。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を
超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

アーヴナイツの女の子たちが魅力的すぎるので恋愛させたい

目

次

モスティマ

アーミヤ

タルラ

ズイマー

18 12 7 1

モスティーマ

やあ、来てくれたね。

龍門に着いたばかりなのに、急に呼び出してごめんね。

ここまで来るの、少し大変だつたよね。道もちよつと複雑だし。
なんとなくだけど、この場所で君とゆつくり話したくなつてね。

ここは龍門の中でも特に夜景がいい場所なんだ。

ほら、見てごらんよ。夜の街並みと星空の両方が凄く綺麗に見える。
それにここは静かだし、いい雰囲気だと思わないかい？

実はちよつといいワインも持つてきてるんだ。一緒に飲もう。

え？いや、まだ酔つてないって。まだこのワインも開けてないよ？
私の顔、そんなに赤くなつてるのかい？

あはは・・・まいつたな。こんなに緊張するなんて私の柄じやないのに。
・・・うん、だつたらすぐ本題に入った方がいいかな。

ん？ああ、そうだよ。本当は呼び出したのはただ何となくではないんだ。

でもちよつと待つてて、私が落ち着かないと・・・。
すう、はあ。

それじやあ、言うよ。

君が、好きだ。

・・・あ、困惑してるね？
まあ、気持ちはわかるよ。

私自身、他人に深入りしない主義だからね。

でも、しようがないじゃないか。それでも、好きになつてしまつたんだからね。

理由、かい？

うーん、理由と言うかきつかけになるけど……。

ほら、覚えているかな？私がちよつと頑張りすぎて倒れちゃつたときのこと。
あの時、たまたま通りがかつた君が私を背負つて運んでくれたよね。
実は背負われている間のこと、ぼんやりとだけど覚えているんだ。
・・・君の背中が、暖かかつたこと。

それからかな。

旅先で、ついつい君の姿を探したり。

偶然会えた時は、いつの間にか君を目で追つたり。

君と話をするのが楽しくて仕方がなかつたり。

まあ、私自身、あまり自覚はなかつたけどね。

自覚をしたのはつい昨日かな。

エクシア達に旅の話とかを色々聞かれてね。

で、君の話になつたときに、それが惚気にしか聞こえなかつたらしくてね。

・・・うん、指摘されたよ。私が君に恋をしているんだってこと。
言われた時は結構恥ずかしかったよ。

でも、それ以上に、納得した。

今日君が龍門に着くのもあって、ソラがはしゃいでいてね。
すぐにも告白するべきだって言われたよ。

納得してくれたかな？

・・・それじゃあ、改めて言うね。それはそれで照れ臭いけど。

私は、君のことが好きだ。

ずっと、君と一緒に居たい。

・・・ありがとう。

ふふ、これからは恋人同士、か。

・・・なんだか嬉しいな。

自分でも驚いたよ。私の中に、まだこんな感情があつたなんて。

今までこんな感情は不要だと思つてたけど、そんなことはないみたいだ。
これからのことかい？

そうだな・・・、どこに行くときも君と一緒に居たい。

恋人らしいことも、いろいろしたいな。

例えば？ そうだね、キスしたり、デートしたり、とか・・・。
んうつ!?

ふ、不意打ちはズルいじやないか・・・！

・・・嫌なんて、そんなわけないけれど・・・。

・・・。

ねえ、もう一度、キスして欲しいな。

今度は不意打ちじやなくて。

ん・・・。

まつて、今は顔を見ないで。

今の私の顔、絶対今までにないくらい赤くなつてゐると思う。
わ、急に抱きしめるのは・・・つ。

・・・・・つ！

い、今その言葉は卑怯だよ。

そりやあ、確かに嬉しいけれど・・・。

・・・うん。

私も愛してゐる・・・○○。

アーミヤ

失礼します、ドクター。

遅くまでお疲れ様です。

お仕事の方はどうですか？

あ、終わっているみたいですね。よかつた。

はい。そろそろ終わるころかなと思いまして、差し入れにお菓子を持つてきました。この後空いていたら、何ですけど、お喋りしながら一緒に食べませんか？

えへへ、ありがとうございます。ドクター。

はい。どうぞ。ドライフルーツ入りのクッキーです。

甘すぎないし、サクサクして美味しいですよ。

お茶もどうぞ。こつちはペットボトル飲料ですけどね。

どうですか？ クッキー、お口に合いますか？

ありがとうございます。嬉しいです。

はい。実はそうなんです。

グムさんに教えてもらつて、私が作りました。

今度エクシアさんにアツプルパイの作り方を教えてもらう予定なんですよ。上手くできるようになつたら、ドクターにも食べてもらいたいです。

いえ、以前はお菓子作りに手を出すことはありませんでした。
チエルノボーゲの件で逃げ出した多くの人がロドスに来て・・・。

新人教育の手間は確かにありますけど、人手が一気に増えたのは確かです。
おかげで、私の仕事も少し余裕ができるようになりました。

お料理とかお菓子作りは、以前からやつてみたかつたんですよ。
次の目標は、ドクターに私の手料理を食べてもらうことです。

いえ、余裕がなかつたのはドクターが不在になる前からです。

・・・確かに、ドクターが居ない間、それ以前よりも大変でした。

戦闘指揮はケルシー先生が変わつてくれましたが、流石にドクターには及ばなく
て・・・。

ロドスの戦場介入の範囲は、実はその間に縮小しているんです。

仕事に余裕ができたのは、その仕事が少し減っているのもあるかもしませんね。

ドクター、謝らないでください。

・・・こんなこと言うのもなんですけど、実は私、ドクターが記憶を失つてよかつたのかも知れないって思うんです。

以前のドクターは、戦場では苛烈な人でした。

味方の犠牲も顧みず、ただ勝利することだけを追い求めていました。

今ドクターは、絶対に味方の犠牲を出さない、その意志が固いですよね。

戦争マシーンになる前の、優しかったころのドクターが帰ってきたような気がして、嬉しかつた・・・。

ドクターは、もう思い出さない方が、幸せかもしれません・・・。

く、暗い話になつちやいましたね。

この話はここまでにしましよう。

大丈夫です。記憶がなくなつても、ドクターの指揮は全く衰えていませんから。

あ、そうだ。ドクター、明日の休日は何か予定はありますか？

はい。明日、二人でお出かけしたいなと思いまして。
チエンさんとスワイヤーさんに龍門の有名なデー···観光名所を教えてもらいま
して。

え？私の休日ですか？

あはは···実はドクターの休日に合わせたくてずらしちゃいました。

職権乱用、は···確かにそうかもしませんが···。

た、たまにはいいじやないです。その分ちゃんと後でやりますから···。

それで、その、どうですか？明日···。

えへへ、ありがとうございます。ドクター。

今からもう明日が楽しみです。

あつ、もうこんな時間なんですか。

早く寝ないと明日起きれなくなっちゃいますね。

私、もう戻ります。ドクターも早く寝てくださいね。

そうだ、お皿返しに行かなきや。

それでは、おやすみなさい。ドクター。
明日は晴れるといいですね！

タルラ

・・ん？

目が覚めたか。

ここはレュニオン本部の私の私室だ。
あまり変に動こうとするなよ。

割ときつめに縛り付けているからな。
下手に動けば、体を痛めるだけだ。

・・「お前たちの目的」か。それは違うな。

お前を連れてきたのは「我々」の目的ではなく「私」の目的だ。
確かにお前の知る医学や戦術の知識は魅力的だ。

だがそれらの知識はお前が自主的に言うまで放置するつもりだ。

もちろん、尋問などしない。他の誰が言おうが私がさせないとも。
私の目的はそんなものではなく、お前自身だ。ドクター■■■■。
私が欲するのはお前の存在そのものだ。

・・・あまり抽象的だと理解できなか。ならばはつきり言おう。

私はお前に惚れている。狂おしいほどにな。

・・・困惑するか。まあそうだろうな。

お前と私の間には個人的な接点など皆無に等しい。

初めてお前を見たのは戦場でだ。

数年ほど前だつたな。詳しくは私も覚えていない。

私も戦場に出たのは数えきれないほどだからな。

何度か戦場で見かけるうちに、自然とお前のことを目で追つていたんだ。

個性の強い戦士達を纏め上げる技量と、戦闘能力を持たないというのに堂々とした立ち振る舞い。

お前のその強さに、いつの間にか惚れていたんだ。

もうわかつただろう。

私がお前を連れてきたのは、お前を私のものにするためだ。

お前の身も心も、私だけのものにしたい。

その代わり、私も、私の全てをお前に捧げよう。

おとなしく私のものになれ。そうすれば、ある程度の自由は認めよう。

ん・・・つ。

ふ、ああ・・・。

軽いキス一つで、こんなにも昂るのか。

初めてを捧げるということが、ここまで嬉しいことだとはな。

ああ、もちろん、ファーストキスだ。

当然だろう？ 私なら、私の身体を狙う輩など容易く焼き払える。

当然、私は処女だ。

この処女も含めて私の身体はお前のものだ。お前だけに全て捧げよう。

・・・やはり、少しやつれているな。

確か、チエルノボーグでずっと危篤状態だつたのだろう？

完全に回復していないのだな。

安心しろ、私が丹精込めてお前の食事を用意してやる。

こう見えて練習はそれなりにしているからな。

味も栄養も人に出せるくらいには上達している。

ロドスが心配か？

なら、やりあわないようすればいい。

ロドスと出くわしたら即座に撤退させれば、こちらも戦力を削らずに済む。何せ、ロドスには厄介な相手が多いからな。

例えお前がいなくとも、常に我々の被害は甚大になる。

最強の指揮官が居ない分、まだだいぶマシにはなるがな。

お前が手に入った以上、奴らとの直接戦闘はほぼ意味がない。少なくとも、私にとつてはな。

だが、他のメンバーはそうはいかないか。

まあ、戦力を最大限温存するという方針を出せば暫くは大丈夫か。

意外か？

だが私の目的はお前だ。

こちらから積極的に口ドスとやりあえれば、お前の心は私から離れていく。
傍から見て愛に狂っているように見えようと、それが解らないほど愚かではない。

ただ、他にどうしようもなくなれば全面対決も必要になるだろうな。

・・・どう足搔いてもその時は必ず来てしまう。

ならばそうなる時を少しでも遅らせ、その間にお前の心を手に入れる。

悪いが、逃がすつもりはないぞ。

部下に見つかって殺されるような事故もないよう、部屋からも出さないようにしないとな。

お前の食事は全て私が用意してやる。そうだな、口移しで食べさせるのもいいかもしない。

風呂には連れていけないが、代わりに私が体を拭いてやる。

鎖で繋がれたままでは難しいだろうから私が着替えを手伝つてやる。

顔を合わせていいのも、会話をしていいのも、私と以外許さない。

そういう生活を続けさせれば、いずれお前は私無しでは生きられなくなる。そうだろう？

お前が全てを私に委ねさえすれば、私も安心してお前に全てを委ねられる。

ああ、楽しみだ。早くそくなつて欲しい。

お前と二人でやりたいことは数えきれないほどあるんだ。

スウ――・・・ハア・・・

ああ、匂い一つすらも、こんなにも愛おしい。

もつと・・・もつとお前を全身で感じたい・・・。

ふふ・・・愛しているぞ、■■■。

ズイマー

よお。ここにいたのか。

・・・オマエも聞いたろ？

チエルノボーグ脱出部隊の総司令、アタシがやることになつた。
オマエは殿部隊に志願したんだろ？

確かに前戦闘スタイルは撹乱に向いてはいる。

だけどよ・・・レュニオンの奴らはマジでヤベエぞ・・・。

今までの、学園間での抗争とはわけが違う。

・・・あー、確かにそうだな。それは全員に言えることだな。
戦える奴はどの役割も、マジで覚悟しなきやなんねえのな。
だけど殿つて一番危険だからな。気を付けろよ。

あ？震てる？アタシが？

・・・ハツ。そんなわけねえだろ・・・。

・・・・・悪い、今のは流石に強がりだ・・・。

ああ。確かにビビつてるよ。

アタシたちはこれから桁違いにヤベエ奴らとやりあわなきやなんねえ。
しかも戦えない奴らを守りながらだ。

あんな強え奴らとやりあつたことなんてねえし、誰かを、しかも大勢を守りながらな
んてことも初めてだ。

そんな中の総司令だぜ？

責任の重さが桁違いだ。

・・・重いんだよ。重すぎるんだよ・・・っ！

どうしてアタシなんだ！

何で奴らはあんなことをするんだ！

隣のシマのボスも同盟相手のトップも奴らに殺された！

しかも戦えない女子供まで平気で巻き込みやがつて！

その上予報もなく天災まで来るとかふざけんじやねえよ！

・・・はあ、はあ・・・・・。

怖い・・・。

もうなんもかもめちゃくちゃで……。

仲が良かつた奴も何人も殺されて……。
あんな残虐なことを、平氣で……。

悪い……。

少しだけ、少しの間だけでいいんだ……。
アタシを抱きしめてくれ……。

……サンキユ。

はは……、こんな情けない姿、オマエにしか見せられねえな……。

こうしてると、いつそ何もかも投げ捨てて、泣きわめきたいなんて思つちまう。
そうしても……許されるかな……。

あ、やっぱ言わなくていい。

オマエに許されたら、本当に泣き出しちまう……。

泣いちまつたらもう、アタシはマジで折れちまうから。

……でも、もうちょっとだけ、このままで……。

……ああ、そろそろ時間だな。

しようがねえ。行くか。

ああ、やるよ。決まつたからにはぜつてえやり遂げてやる。
生きて、守つて、ロドスまで辿り着いて見せる。

アタシは、絶対に死なねえ。

だからよ、オマエも死ぬんじやねえぞ。

もし死んだりしたら、あの世まで追いかけてつてぶん殴つてやる。

総司令の立場やあいつらへの責任を放り投げてでもだ。

・・・・・ なあ、ロドスで合流した後、さ・・・。

・・・ 悪い、今のはし。

死ぬなよ、相棒。